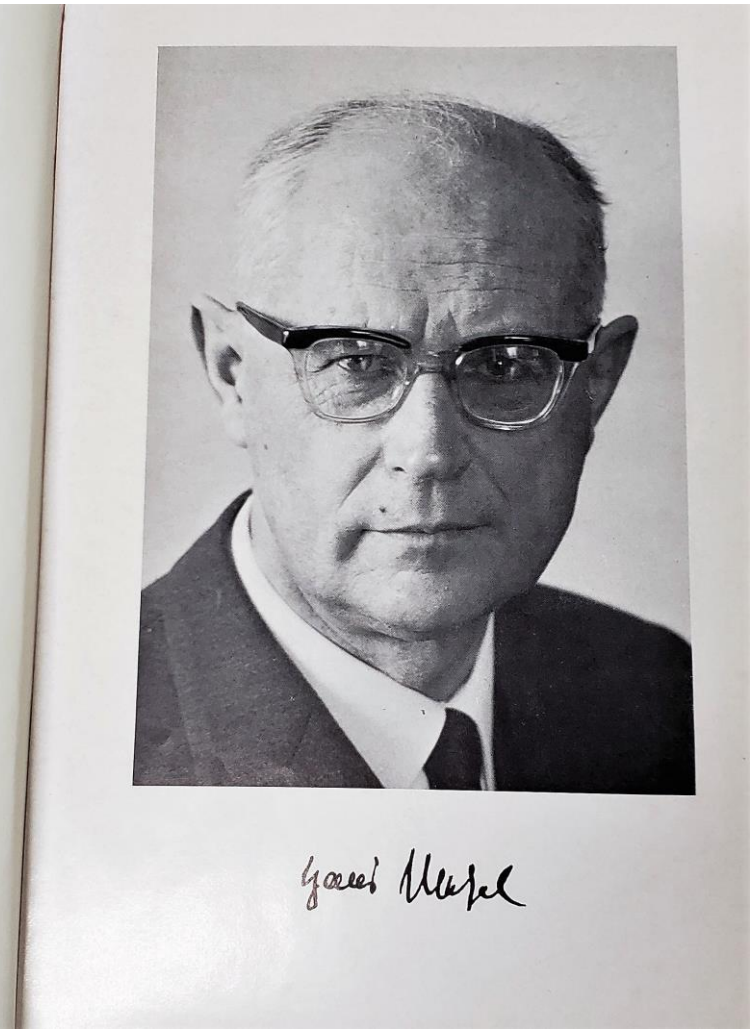
De Gruyter社での出版経験

2019.6.10.

法学研究科教授（刑事法大講座）
髙山 佳奈子

法学分野で最も権威ある出版社の1つ



- Hans Welzel
  Das Deutsche Strafrecht

京大刑事法大講座に属する
教授の先生の先生に
あたる。（ボン大学）
Armin Kaufmann
Günther Jakobs
↓
中森喜彦（名誉教授・元理事）
塩見淳（法科大学院長）

Karl Riesenhuber/Kanako Takayama Rechtsangleichung (2006)

- 2005「日本におけるドイツ年」行事としての法学シンポジウムを開催
  Alexander von Humboldt財団、ドイツ学術交流会（DAAD）と共に企画
- 「若手研究者フォーラム」をRiesenhuber教授と髙山で組織
- 参加者の報告・寄稿論文を掲載
- ドイツ語版・日本語版を収録
- 国際コミュニケーション財団やStifterverband für Wissenschaftの助成

出版の成果

- 全部で22本の論文を収録
- シンポジウムでの発表者、論文寄稿者、翻訳者の海外業績ができた

- 大学院生が任期なし専任講師や准教授のポストに就職できた
- 専任講師や准教授は有名大学に転任
- 編者2人はその後も「若手研究者フォーラム」を実施し論文集をNomosから出版できた（2013）若手の就職につながった

作業はものすごく大変だった

- 2か国語出版は
  もうやりたくない…

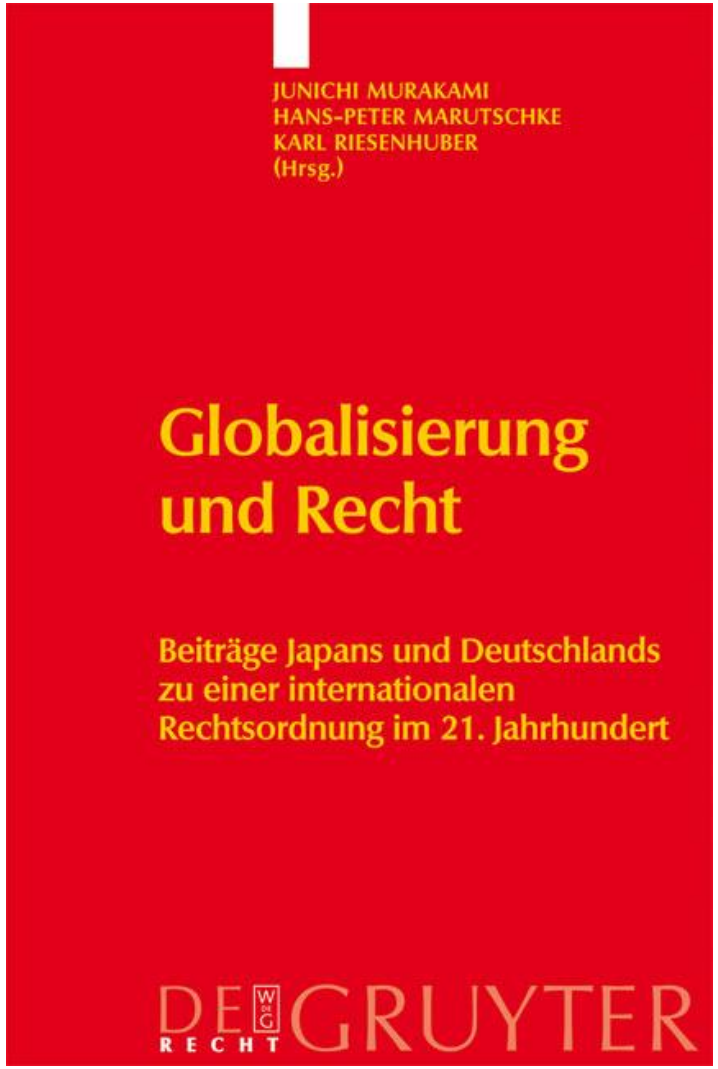
  （ドイツで日本語版を出してもあまり読者がいない）

2005年当時の2人→

他の論文集（非若手シンポジウム記録）

- Junichi Murakami / Hans-Peter Marutschke / Karl Riesenhuber (Hrsg.), Globalisierung und Recht - Beiträge Japans und Deutschlands zu einer internationalen Rechtsordnung im 21. Jahrhundert
(2007)

「ドイツ年」会議を基に出版



Bochum, 2018

- 次世代に
  つながる
  交流の礎に

Thank you!